OSAKA
DENTAL
UNIVERSITY

大阪歯科大学広報
NEWS

No.
133
2004. Apr

ODU NEWS 大阪歯科大学広報
ODU NEWS No.133
2004年4月30日

≪ 目 次 ≫

・平成15年度 大学卒業式・大学院
学位認証式 ……3
・平成15年度 卒業式学長告辞
学長 古跡養之眞 ……3
・平成15年度 卒業式理事長式辞
理事長 佐川寛典 ……4
・祝 辞 同窓会会長 村上 勝 ……5
・祝 辞 枚方市長 中司 宏 ……6
・学位（博士）授与報告 ……7
・平成15年度 解剖体遺骨返還式 ……8
・大阪歯科大学公開講座・枚方講座 ……8
<トピックス>
・歯科衛生士専門学校
牧野学舎（別館）新設工事始まる ……10
・三年制養成への移行について
歯科衛生士専門学校校長 矢尾和彦 ……10
・専門学校広報パンフレットについて ……11
・人 事 ……12
・雑 報 ……12
・あとがき ……13

平成15年度 大学卒業式・大学院学位認証式（平成16年3月22日）

平成15年度 大学卒業式 大学院学位認証式

平成16年３月22日(月)午前10時より，第52回大学卒業生卒業証書・学位記授与式ならびに第40回大学院博士課程修了者学位認証式が挙行された。

式典は開会の辞で始まり，国歌斉唱の後，古跡学長より大学卒業生120名，指導教授より大学院修了者19名一人ひとりに学位記が授与された。学長告辞，佐川理事長の式辞，来賓祝辞，卒業生記念品贈呈と続き，最後に一同学歌斉唱し，式典は無事滞りなく終了した。

平成15年度 卒業式学長告辞

学 長　古跡養之眞

平成15年度第52回大学卒業証書，学位記授与式ならびに第40回大学院修了者学位認証式を挙行するにあたりまして多数のご来賓，ご家族のご臨席を賜り，まことにありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

とりわけ，ご両親様におかれましては，今日の日をどんなにか心待ちにしておられたことと存じます。ともどもお子様の前途を期待し，また幸多きことを祈念する次第であります。

さて，本日，大阪歯科大学をご卒業になり，晴れて学位記を手にされた120名の皆様，本当におめでとうございます。教職員一同を代表して心からお祝い申し上げます。

昨年の卒業式では，遂にイラクで戦争が勃発した悲しみを述べさせていただきました。ちょうど一年が経過し，戦火は収まったとされていますが，いたる所で発生する無差別テロによって，突然命を奪われる市民が後を絶ちません。戦争よりも，もっと理不尽だと思います。21世紀は「心の世紀」とはとても言えたものではありません。世界中の人々が怯えずに毎日を送れる時代が，一日も早く到来して欲しいものです。

「戦」もさることながら，「病」にも人々は怯えます。なかでも「がん」は，代表的なものの一つです。卒業生諸君あるいは「口腔外科学」を専攻された大学院修了者の方々にとって「がんの告知」にはいつ何時直面するかわかりません。なにしろ，私の集計したデータでは口腔に発現する腫瘍の50％は悪性腫瘍なんですから……。

放送作家の永 六輔氏は最近，岩波書店から出版された『伝言』という著書のなかで，「がんの告知」に反対する意見を述べておられます。その理由は，きちんとした医学的な裏付けを示したうえで，しかも患者のショックもちゃんとわかったうえで，「あなたはがんです」と伝える表現力を持った医者はめったにいないからだそうです。

「いま，医者の多くはきちんと伝える言葉を持っていません。患者がきちんと受けとめられるだけの表現力や会話力を持っていない。言葉を持ってなくて，きちんと伝えられないのに……最近の医者はどんどん『告知』しちゃうんですね。『あなたは，がんです』告知とは冷たいと思いませんか」

私も，まったく同感です。これは告知ではなく宣告です。

諸君たちは，いかに医療技術を磨こうかと考えていることと思います。しかし，一方では「医療は言葉」であることも忘れないで下さい。医療にテロは禁物です。病人にとっては言葉も十分爆薬になるのです。

今年も金子みすゞの詩を一つ紹介したいと思います。タイトルは『さびしいとき』です。

私がさびしいときに，／よその人は知らないの。
私がさびしいときに，／お友達は笑うの。
私がさびしいときに，／お母さんはやさしいの。
私がさびしいときに，／仏さまはさびしいの。

それぞれに受けとめ方は色々あると思いますが，彼女の表現の素晴らしいところは，最後の仏さまはと歌っているところです。決して仏さまもではないのです。私たちはお願いすれば仏さまや神さまは，さびしさを取り除いてくれたり，さびしさを代わってくれるとかん違いしているのです。仏さまもと歌えば，第三者である仏さまに期待していることになります。そうではなくて，仏さまは私たちの内におられるのです。そして「さびしい」と言えば「さびしいね」とこだまして下さるのです。つまり，仏さまや神さまは「さびしさ」を半分にしてくれる存在なのであります。

さきほどの『伝言』にこのような一節があります。

「患者の痛みを止める薬はあっても，さびしさを止める薬はありません」。でも，そのさびしさにも対応できる医者が患者の悲しみや辛さのわかる医者だと思います。医療技術だけでなく，言葉も磨いて下さい。

次にめでたく博士（歯学）の学位を獲得された19名の皆様，大学院修了まことにおめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

今，諸君たちは，それぞれの学位記を手にある種の達成感で，気持ちの高まりを抑え切れないことと思います。21世紀に入り，国力とは経済力ではなく，知力であるといわれるようになりました。産学連携が強く叫ばれ研究は高尚を装うものではなく，実学でなければならないという時代になって参りました。

わが国の大学・大学院教育に対する評価は毎年下がり続けており，スイスにある国際経営開発研究所が刊行している世界競争力年鑑によれば，国際競争力を支える重要な項目の一つである人材分野において遂に主要47か国中最下位に転落したそうであります。

隣国中国ではすでに21世紀初頭には国際的に通用する100の大学を作るとして重点大学の選定に入っております。政府の教育への支出割合は韓国，香港，台湾，シンガポールがすでに日本を凌駕していると伝えられております。本学の大学院も変わらなければなりません。そして，人材は宝なのであります。私は毎年大学院修了者を送り出すだけで，引き止めるすべを持たないことをとても恥ずかしく思っております。しかしながら，国の財政の低迷とともに教員としての研究者の収容力にも限界がみえています。これからの大学院は研究者養成とともに高度専門的職業人の養成にも努め，社会の需要に応えることで大学院の発展・活性化をはからなければならないと考えております。

わが国では研究費の申請に対する審査は厳しいが，研究者が実際にどれだけの成果を出したのかという事後評価が不十分であります。学内の奨励金についても例外ではありません。

諸君たちも，それぞれの論文がこれからどれほど引用されるか，どれだけの分野に関心を持たれるのかのフォローを怠らないで下さい。そして今日この場所で感じた高揚感を保ち続けて下さい。本学にも必ず諸君たちを必要とするときが訪れることを信じて告辞といたします。

第５２回大阪歯科大学卒業式
第４０回大学院学位認証式祝辞

理事長　佐川　寛典

大阪歯科大学第52回，120名のご卒業の皆さんならびに第40回大学院博士課程修了者，19名の皆さん．また，本日のこの日を一日千秋の思いでお待ちになられたご家族の方々，本日は本当におめでとうございました。

心よりお慶び申し上げます。

さて，先日の３月18，19両日行われた国家試験も無事終えられ，まもなく発表ですが，皆さんの晴れ晴れと自信に満ちた明るいお顔を拝見して，安心いたしております。

私たち教職員は緻密な思考力を傾注し，さらに，愛情あふれる教育と，大学院においては，専門分野の情熱あふれる研究指導によって，歯学博士の学位を手にされた方々も含め，人間性豊かな優秀な歯科医師の誕生となり，プロフェッショナルとして，国民の歯科医療を通じて，日本各地や国際舞台でご活躍されることでありましょう。

ご存じのように，皆さんの卒業後の大学は平成18年より始まる卒後研修の必修化に向けての受入れ準備，大学院重点化や高度情報化への対応等，法人を取り巻く環境は目まぐるしく変化し，ますます厳しさを増している。

大学改革の柱として，教育・研究の高度化，高等教育の個性化，組織運営の活性化が挙げられ，大学は，競争的環境の中にあって個性輝く大学づくりをしなければならないのであり，これからの医療は，E. B. M.（エビデンス・ベイスド・メディシン）すなわち，「根拠に基づく医療」でなくてはならず，さらに，高度先進歯科医療の促進と発展に向けての研究と奉仕を続けなければなりません。

昨今の医学の進歩は著しく，その一つにゲノム解析分野，とくに，遺伝子多型解析の科学技術の進歩を背景とした医療改革がある。

個々の遺伝子解析により，病気の発症機序解明はもとより，その患者に最適で，より効果的な投薬や治療法を選択して，最適な医療を提供する，いわゆる「オーダーメイド医療」が，ごく近い将来実現可能となっ

てきており，大学を離れても，常に新しい知識を追求し，チャレンジ精神で忍耐強く頑張って下さることを期待しています。

さらに，これからは，優秀な歯科医師であると同時に，逞しく，望まれる日本人でなくてはならず ―― そのためには，

① 自ら考え，行動する日本人
② 「知」の世紀である21世紀のトップリーダーとなれる日本人
③ 心豊かな文化と社会を継承し創造できる日本人
④ 国際社会を生きる教養ある逞しい日本人

であり，明るい希望に満ちた，夢のある素晴らしい新しい日本を創造して下さい。

残念なことに，現在，私たちが住む地球には，真の世界平和は訪れることもなく，苦い戦争経験を持つ私にとって，争いのない，心豊かな，美しい自然を持つ地球と人の生命を大切にする人たちと手と手をとり，助けあって行くことを願う以外はありません。

最後になりましたが，私の好きなことばである『人は人の為にある』を，皆さんにお贈りして理事長の式辞といたします。

祝　辞

同窓会会長　村上　勝

平成15年度大阪歯科大学卒業式ならびに大学院学位認証式に当り，全国同窓会員を代表して祝辞を申し上げます。

６年間の学業を終えられ，めでたく卒業の日を迎えられました新しい歯学士の皆様，そして永年の大学院での研究を終えられ歯学博士の認証を得られた皆様方の努力に対し，心から敬意を表しお祝いを申し上げます。又，本日の晴れの日を一日千秋の思いで待ちわび，本人在学中に筆舌に尽くせぬ，時には温かくそして時には厳しいご支援をなさいましたご家族の皆様方に深甚なる敬意を表し，お喜びを申し上げます。大阪歯科大学は，創立90年余りにわたる歴史と伝統ある大学であります。本大学を卒業され歯科界に翔たかれる諸君の前途には洋々たる未来が開かれることを確信致します。

諸君は，申すまでもなく本日より歴史と伝統ある大阪歯科大学同窓会の一員であります。同窓会はこれから歯科医師として活躍してゆくうえで一番身近で親しみ深い同胞の組織であり絆を確かめ合うよりどころであります。私たち先輩もその役割を果たしたいと念願しております。大阪歯科大学同窓会の一員であるという帰属意識をもって，同窓会の事業や研修会に積極的に参画して下さい。諸君の若さ溢れる素晴らしい情熱と行動力を私たち同窓一同は大きな期待をもってお迎えします。

私たち歯科医師という職業は日進月歩の歯学の充実，発展，高度化を吸収し，その知識と技術を習得していかねばならない生涯研修という宿命をもっていますが，それによって患者さんや国民の皆さんに信頼されることになるのです。

平成18年度からは歯科医師の卒後臨床研修が法律により必修化されます。これは臨床上の医療技術や知識の向上の為に必要な制度である事は当然ですが，一方歯科医師と患者さんの相互信頼の関係が最も大切な事として要求される時代となり，その為にも臨床研修の必要性が位置づけられる事となったのだと思います。

戦後という言葉はもはや死語かも知れませんが，たしかに終戦後の日本は戦前とは大きく変わりました。この60年弱の歴史の中で，日本人は経済成長第一でやってきたためにカネより重要なものがあることを見失った部分が多くあります。現在，諸君は物質的な貧しさをあまり経験していないと思います。しかし，精神的な貧しさを社会の中で感じられることは多いと思います。例えば，日々の新聞紙上での凶悪な犯罪，特に家庭内暴力や幼児虐待，またテロ行為等一般市民に対する犯行，人命の尊さを全く無視した行為などです。私たちが今考えねばならないのは，一つの秩序，そして，その基本となる人間愛だと思います。諸君が最高学府を出て知識人として，これから考え，そして行動していただく基本は傲慢にならない事，五木寛之氏の『他力』という本の中には，彼がトルストイの言葉を引用して「知識人や芸術家は一介の農夫に学ぶべきだ」と書いています。どうか謙虚に，しかも勇敢に人々への奉仕をする人生を送って下さい。

今，歯科界は大変厳しい環境にあります。新聞紙上で報じられている日本歯科医師連盟の問題や，医療費圧縮からくる歯科医院の経営圧迫化の流れ等，諸君が

大学を卒業すると忽ち臨床の場で，その虚しさを感じられることがあると思いますが，歯科界の将来に燭光あることを信じ，歯科医療，医学の向上のため頑張って下さい。

祝　辞

枚方市長　中司　宏

ご卒業おめでとうございます。

皆さんが在学中に得られた知識や技能，そして様々な人との出会いを大きな糧とされ，歯科医療の向上に貢献いただきますよう願っています。

大変厳しい時代でありますが，いつの場合も若いエネルギーが困難を乗り越える原動力となってきました。一人ひとりが若さと果敢なチャレンジ精神をもって，明るい未来を切り拓いてください。

そして，周りで支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず，地域社会にも積極的に貢献されますよう願っています。

学長はじめ，多くの大学関係者の熱意あふれるご指導に深く敬意を表しますとともに，皆さんの希望に満ちた門出をお祝いし，今後のご活躍を心からお祈りいたします。

学位（博士）授与報告

荒垣　聡亮　甲第511号　（平成16年3月22日）
Assessment of Psychological Stress using Salivary Amylase and Cortisol Measurements（唾液中アミラーゼとコルチゾルによる心理ストレスの評価）

江藤　賢治　甲第512号　（平成16年3月22日）
Determination of Haloperidol Levels in Submandibular Saliva, Plasma and Brain in Individual Rats（ラットにおける抗精神病薬ハロペリドールの顎下腺唾液，血液および脳内濃度の比較）

畑　裕紀子　甲第513号　（平成16年3月22日）
Histological study of gingival epithelium in a type II diabetes mellitus rat model（二型糖尿病モデルラット歯肉上皮における組織学的検索）

山根　一芳　甲第514号　（平成16年3月22日）
*Prevotella nigrescens*が産生するexopolysaccharideの性状

永木恵美子　甲第515号　（平成16年3月22日）
顎顔面形態と咬筋との関係について

藤岡宗之輔　甲第516号　（平成16年3月22日）
チタン鋳造用ガラス配合型リン酸塩系埋没材の開発に関する研究

内貴　寛敬　甲第517号　（平成16年3月22日）
嚥下時における鼻呼吸動態の解析

橋本佳代子　甲第518号　（平成16年3月22日）
Histological examination of peripheral neuropathy caused by paclitaxel（パクリタキセルによる末梢神経障害の組織学的研究）

森下　寛史　甲第519号　（平成16年3月22日）
骨関節症発症マウス顎関節におけるMMP-3とTIMP-2の遺伝子発現

薬師寺健太郎　甲第520号　（平成16年3月22日）
骨芽細胞でのRANKL発現におけるPKC-δの関与

浦　栄吾　甲第521号　（平成16年3月22日）
4-nitroquinoline 1-oxide刺激ラット舌粘膜上皮細胞の培養と*in vitro*での癌化

小池　敏克　甲第522号　（平成16年3月22日）
ラットの歯周組織再生における多血小板血漿とエナメルマトリックスデリバティブとの病理組織学的比較

澄川　拓也　甲第523号　（平成16年3月22日）
インプラントの埋入深さが動揺度に及ぼす影響に関する基礎的研究

正重　裕一　甲第524号　（平成16年3月22日）
下歯槽神経再生に関する電気生理学的研究

山本　昌宏　甲第525号　（平成16年3月22日）
Analysis of stress distribution during movement of the maxillary first molar using the three-dimensional finite element method（上顎第一大臼歯に矯正力を加えた場合の移動様相に関する研究）

村松　豪太　甲第526号　（平成16年3月22日）
オクルーザルスプリントが咬筋筋疲労に及ぼす効果－咬筋運動誘発電位からの分析－

大前　正範　甲第527号　（平成16年3月22日）
Er:YAGレーザー照射象牙質に対するコンポジットレジンの接着強さ　－フッ化物およびグルタルアルデヒドの影響－

谷本　啓彰　甲第528号　（平成16年3月22日）
フッ化物徐放性修復材料による象牙質の脱灰抑制

井上　明洋　甲第529号　（平成16年3月22日）
臼歯欠損がラット下顎頭軟骨プロテオグリカンに及ぼす影響

藤谷　富男　乙第1431号　（平成16年3月24日）
磁気共鳴画像における歯科用金属修復物によるアーチファクトの実験的検討

大谷　敬三　乙第1432号　（平成16年3月24日）
小児期の下顎窩外周の分析

堀　良之　乙第1433号　（平成16年3月24日）
4-META/MMA-TBBレジンを基材とする試作逆根管充填材の生体親和性

渡邉　景子　乙第1434号　（平成16年3月24日）
歯根膜由来線維芽細胞の増殖能に対する増殖因子，adenosineおよびATPの影響

椋　　秀雄　乙第1435号　（平成16年3月24日）
Effect of TGF-β on paracellular transport in the rat submandibular gland acini（ラット顎下腺腺房部細胞の傍細胞性輸送経路に対するTGF-βの影響）

白山　善男　乙第1436号　（平成16年3月24日）
緑茶カテキン類が口腔扁平上皮癌細胞株のFocal Adhesion Kinase(FAK)におよぼす影響

隈部　俊二　乙第1437号　（平成16年3月24日）
Immunohistochemical Study of Genesis of the Mouse Oral Vestibule（マウス口腔前庭の発生の免疫組織化学的研究）

平成15年度 解剖体遺骨返還式

平成15年度解剖体遺骨返還式が，去る平成16年３月５日(金)午後１時から，楠葉学舎３階大会議室にて執り行われた。

始めに，歯科医学教育のために自らの身体を提供された故人の御霊に対し，参列者一同ご冥福を祈り黙祷を捧げた。続いて，古跡学長よりご遺族に対し御礼が述べられた後，25体のご遺骨をご遺族お一人お一人丁重に返還された。

最後に，解剖学講座諏訪文彦教授から「献体にご協力を賜ったご遺族に対し，心よりお礼を申し上げたい」との謝辞が述べられ，式は滞りなく終了した。

解剖体遺骨返還式（３階大会議室）

第11回大阪歯科大学公開講座 枚方講座開催される

第11回大阪歯科大学公開講座・枚方講座が，去る２月21日(土)から３月13日(土)にかけて，毎土曜日の午後２時から楠葉学舎講堂で開催された。

天候に恵まれたこともあり，どの講座も200名前後の参加者が本学に足を運ばれ，10年を経て枚方市民の間に「歯科大学の公開講座」として定着した感がある。初日の２月21日には，受付のスタッフと笑顔で１年振りの挨拶を交わす参加者も多く見られた。

講師の先生方にとっては，夏の講義室を使った天満橋講座と違い，冬は大講堂の壇上での講演でありその緊張感も大変なものと想像される。しかし，講演が始まるとスライド等を使って，各専門分野の病気の種類・しくみ・対処法等を丁寧にわかり易く解説していただき，どの講座においても熱心な聴衆から多数の質問が寄せられた。

最終日の講義終了後，古跡学長から枚方講座４週連続受講者118名を代表して，西山義昭さんに修了証と記念品が贈呈された。こうして11年目を迎えた今年度の公開講座「シルバーエイジと健康」はすべて無事終了した。講師をしていただいた湊川先生、岸本先生、小正先生そして古跡学長，またお手伝いいただいた先生方，ほんとに１年間お疲れ様でした。改めてお礼申し上げます。

∞　∞　∞　∞　∞

枚方講座で講演する小正教授

今年度の受講者数は，以下の通りである。前年度に比べ天満橋講座，枚方講座とも増加している。

第11回大阪歯科大学公開講座受講者数

	第１週	第２週	第３週	第４週	合　計	修了者
天満橋	162	153	144	142	601	98
枚　方	208	201	186	182	777	118

第12回大阪歯科大学公開講座の概要が決まりましたので，お知らせします。メインテーマは「ミドルエイジと健康」で，大阪歯科大学が誇る女性講師４人衆が登場します。ご期待ください。

枚方講座会場の様子（講堂）

―ご案内―

第12回 大阪歯科大学公開講座

メインテーマ

―ミドルエイジと健康―

・会　　場　天満橋講座（附属病院）平成16年8月21日(土)～9月11日(土)
　　枚方講座（楠葉学舎）平成17年2月19日(土)～3月12日(土)
・開催時間　毎週土曜日　午後2時から午後4時

月　　日	サブテーマ	講　　師
平成16年8月21日(土) 平成17年2月19日(土)	東洋医学と健康	歯科麻酔学講座 講　師　方　　一如
平成16年8月28日(土) 平成17年2月26日(土)	肥満と食生活	生化学講座 助教授　塩路伊佐子
平成16年9月4日(土) 平成17年3月5日(土)	薬との上手な付き合い方	薬理学講座 助教授　篠原　光子
平成16年9月11日(土) 平成17年3月12日(土)	口の健康は自分の手で	口腔診断科 講　師　辻　一起子

歯科衛生士専門学校三年制移行に向け 牧野学舎（別館）新設工事始まる

歯科衛生士専門学校平成17年度三年制移行に伴い，牧野学舎において２月４日(水)から学舎新設工事が始まりました。

歯科衛生士専門学校は平成17年４月から三年制に移行しますが，現在の天満橋キャンパス内の施設だけでは学生の収容が不可能となるため，牧野学舎「別館」を改装工事することにより歯科衛生士専門学校の新学舎とします。別館の耐震補強工事を行うとともに内部を改造し，教室や実習室の改修工事をはじめこれからの介護実習にも対応した設備が設置されます。

また，新設工事と並行して工事詳細の詰めを行う工程会議も２週間に１度牧野学舎で開催されており，平成17年４月の開校を目指し，工事は平成16年９月まで急ピッチで進められます。

牧野学舎別館新設工事の様子

三年制養成への移行について

歯科衛生士専門学校校長　矢尾　和彦

本学の歯科衛生士専門学校は，平成17年に三年制養成に移行します。昭和43年の創立以来，36年間に亘って二年制の歯科衛生士養成を行ってきました。その間に医療の基本姿勢が疾病の治療から予防と健康の維持・増進へと移り，医療サービスの在り方も医師中心型から患者中心型へと変わってきました。

この変化に伴い歯科衛生士の主たる業務は，歯科医師の行う歯科治療の補助的業務から歯科疾患の予防と治療後のメインテナンスなど口腔保健に直接関わる業務へとシフトしてきました。また，福祉高齢社会を迎えて，歯科衛生士は診療室の中だけでなく，要介護者の居宅・老健施設・病院などに出かけて歯科保健サービスを提供するようになり，医療現場では歯科医師との協働だけでなく，医師・看護師など他職種の医療従事者や介護・福祉関連職種の人たちと連携を保ちながら仕事を進めていくことが必要になりました。

このような業務の多様化に伴い歯科衛生士には，これまでに増して高い資質が要求されるようになり，学校には，それに応える教育をする責任があります。本校は，これまでの二年制教育課程においても医療現場の要求に対応すべく努力をしてきました。しかし本校の総授業時間数は，規定の時間数を335時間も越えてカリキュラムは過密になり，２年の教育年限では必要とされる新たな教育内容を取り入れることが困難な状態になっています。

専門学校の使命は，臨床現場の要求に応じた即戦力となる人材を養成することにあります。一般に看護教育では習得を目標とし，卒後教育において習熟を目指しますが，歯科衛生の教育では卒業時点で知識と技術の習熟が求められています。しかし二年制教育では，習熟のレベルに到達していないのが現状です。その理由は，教育年限が不足しているためだけではなく，臨床実習の在り方にも原因があります。歯学教育のように卒後教育が整備されていない歯科衛生教育では，従来から行われている診療介助実習だけではなく，歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導など歯科衛生士の主要業務について参加型臨床実習による実践を通じた習熟教育が必要です。参加型臨床実習の必要性は平成11年から始めた専攻科の教育成果をみて痛感しており，三年制教育を受ける生徒の臨床実習が始まるまでに実現されることを切望しています。

三年制養成が始まると，第１・第２学年は牧野学舎で基礎教育を受け，第３学年と専攻科は天満橋学舎で臨床実習を行うことになります。

交通の要所で附属病院のある天満橋学舎から学校の半分を牧野学舎へ移すことについて，当初は疑問視する意見もありました。しかし，医療関係職種の教育内容が今後も拡充され高次化していくことは必然であり，

やがて専門学校から短期大学になり，更には大学へと発展していく可能性のあることを勘案すると，今は多少の不便があっても，これが最善の選択肢であったと考えています。

本校が今日あるのは，ひとえに歯科大学のご尽力の賜に他なりません。三年制教育におきましてもこれまでと同様にご指導ご鞭撻下さいますよう御願い致します。

歯科技工士専門学校・歯科衛生士専門学校 広報パンフレットについて

昨年10月本学の広報記事が「読売ウィークリー」に掲載されましたが(本誌131号で紹介)，その記事とともに別刷として本学の専門学校の広報パンフレットが作成されていますので紹介します。

大阪歯科大学

歯科技工士専門学校

〒573-1144 大阪府枚方市牧野本町1-4-4 TEL.072-857-3905 FAX.072-857-0080

1964年 大阪歯科大学附属歯科技工士養成所として創立
歯科技工士学科(2年制昼間部)男女1学年90名定員
歯科技工士専攻科(2年制昼間部)男女1学年40名定員
スタッフ:専任教員19名・非常勤講師70名
http://www.odutech.com

歴史と伝統に培われた教育がプロフェッショナルへの道を開く

緑と広大なキャンパスに恵まれた自然の中で充実した教育を受けられる環境がここにあります。

文部科学大臣指定校として伝統ある大阪歯科大学の庇護のもと環境豊かな広大なキャンパス、経験豊かな大学教授陣と専任教員、機能的な実習設備など歯科技工の専門技術を習得するにはこの上ない環境にあります。特に大学附属の利点を生かし、莫大な蔵書を誇る図書館や情報処理施設の利用、医療人としての人間形成や解剖学実習など基礎歯学的教育分野の充実、さらには豊富な臨床症例が実体験できる最新設備の附属病院の活用など経験豊かな即戦力となる歯科技工士の養成に努めています。

大阪歯科大学

歯科衛生士専門学校

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-5-17 TEL.06-6910-1064 FAX.06-6910-1065

1968年 大阪歯科大学附属歯科衛生士学校として創立
歯科衛生士学科(2年制昼間部)女子1学年40名定員
スタッフ:専任教員6名・非常勤講師99名
http://www.osaka-dent.ac.jp/eiseishi/

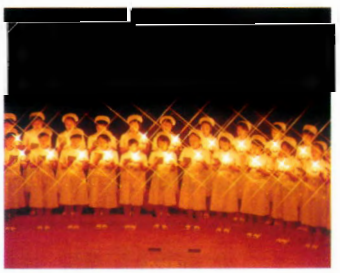
豊かな人間性あふれる歯科衛生士を育成

患者さんに対して、常に誠実であり、思いやりの心をもって接することができる医療人の育成を目指しています。

【歯科衛生士本科】 歯科衛生士は、ムシ歯や歯周病の予防、口腔の健康を維持するための保健指導、歯科診療補助といった診療所の中での業務だけでなく、地域社会における公衆衛生や社会福祉活動の担い手として、その必要性が益々高まってきています。本校は、そのような社会の要請に応えるために、大阪歯科大学と密接な連携を保ちながら、高度で実践的な教育を展開しています。教育に携わるスタッフの多くは大阪歯科大学の教授陣で構成されており、基礎実習はメインキャンパスの楠葉学舎で、保健体育やクラブ活動は牧野校舎で、臨床実習は天満橋学舎の大学附属病院で行われるなど、非常に恵まれた環境の下で教育を受けることができます。

【専攻科】 2年間の教育を経て国家試験に合格すると歯科衛生士の資格が取得できますが、歯科医学の進歩と社会情勢の変化に伴い急速に発展しつつある歯科医療現場の要請にも応える必要があります。本校では、さらに一歩進んだ技術と知識を求める人のために専攻科と2級訪問介護員のコースを設置して、ワン・ランク上位の歯科衛生士を養成しています。

【3年制養成の開始】 本校は、より高い資質を備えた歯科衛生士を社会に送り出すために、平成17年から3年制の養成に移行します。



人　事

特別昇任

口腔外科学第二講座　助教授　有家　巧
H16.3.31付

依願退職

薬理学講座　助手　東　泰孝
有歯補綴咬合学講座　助手　龍田　光弘
口腔外科学第一講座　助手　杉本　圭介
口腔外科学第二講座　助教授　有家　巧
歯科矯正学講座　助手　有本　博英
眼科　病院講師　永井　由巳
附属病院　歯科衛生士　奥田　敦子
歯科衛生士専門学校　助教員　濱本　愛子
以上 H16.3.31付

死亡退職

歯科矯正学講座　助手　上埜　文武
H16.2.1付

委　嘱

財務企画委員会経営部会部会長　田治米保夫
H16.2.26付

財務企画委員会経営部会部会員
村上　勝，岡　邦恭
矢尾　和彦，末瀬　一彦
中村　正明，川添　堯彬
田中　昭男，堂前　尚親
覚道　健治，田中佐和子
上田　実，前野　隆
松村　誠一
以上 H16.2.26付

財務企画委員会経営部会オブザーバー
岡野　雄次，木田喜代江
以上 H16.2.26付

財務企画委員会給与部会部会長　新田　孟
H16.2.26付

財務企画委員会給与部会部会員
今井　久夫，川添　堯彬
大東　道治，大浦　清
田中佐和子，上田　実
前野　隆，松村　誠一
髙須　聡
以上 H16.2.26付

財務企画委員会給与部会事務　池田　良則
H16.2.26付

財務企画委員会給与部会オブザーバー　大野　康裕
H16.2.26付

財務企画委員会オブザーバー
池田　良則，松村　誠一
以上 H16.2.26付

大阪歯科大学創立95周年記念行事企画委員会委員
佐川　寛典，古跡養之眞
村上　勝，新田　孟
田治米保夫，岡　邦恭
今井　久夫，中村　正明
川添　堯彬，田中佐和子
上田　実，前野　隆
以上 H16.2.26付

雑　報

住所変更

宮本美千子　附属病院　歯科衛生士
〒 532-0031 大阪市淀川区加島3-13-2
TEL 06-6309-0933

吉田　匡宏　口腔治療学講座
〒 572-0093 寝屋川市池田北町24-2寝屋川サンハイツ B棟708　TEL 072-827-0885

～お誕生おめでとうございます～

生理学講座　井上　博　菜月（なつき）さん
薬理学講座　真下　千穂　美桜（みゆう）さん

～お悔やみ申し上げます～

附属病院　看護師　久保田陽子　ご尊父様逝去
附属病院　歯科技工士　加地　公夫　ご尊父様逝去

あとがき

－余談－

訳あって本学の歴史を調べているとき，一枚の写真に魅了された。遠くの一点を見つめた瞳，決意を秘めた堅く結ばれた口元，失礼を承知で言えば，実にいい顔をしているのである。それが本学の創立者藤原市太郎である。

藤原市太郎

大学史によれば，市太郎は幕末の元治元年（1864年）大阪島ノ内の町家に生まれている。少青年時代のこと，歯科医を志した経緯については書かれていないが，20歳ごろに「歯科医師開業試験」に合格し診療所を開業している。20代後半には20数名の歯科医師をめざす内弟子がいたといわれている。さらに，明治27年からは「歯科医学講習所」を主催し，夜間講習を行うなど後進の教育にも熱心であった。その市太郎に運命のときが訪れる。明治43年８月有志らとともに10日間にわたる学生のための「歯科医学夏季講習会」を開催し，関西の著名な歯科医学指導者だけでなく，東京から講師として招いた当時専門学校に昇格したばかりの東京歯科医学院の教授４名も一堂に会することとなった。このとき，市太郎は大阪の地に歯科医学校を設立することを決意している。

決意したものの，現実に歯科医学校を設立するまでの道のりはたやすいものではなかった。建設委員を依頼した有志が相次ぎ資質に合わずとして辞退するなか，ひとり資金面，役所との折衝，校地探し・校舎の建設と東奔西走しなければならなかった。設立基金について一言ふれておきたいことは，当時大阪在住の歯科医師60余名のうち実に34名が設立基金に協力していることである。本学設立の背景にはそうした熱意と協力があったことは忘れてはならない。明治44年12月，市太郎の苦労が実り大阪府知事から「大阪歯科医学校」設立認可を得て，明けて１月14日には盛大な開校記念式典が挙行された。

開校後も，附属医院の設立，校舎の増築・移転の問題をはじめ，経営基盤が脆弱なため教員への給与の未払い，学生の設備改善要求なども招来し，決して順調な道のりではなかった。とりわけ，開校当初から課題であった学校の将来の問題，すなわち「専門学校設立」の問題を避けては通れなくなっていた。その間の詳細は省くが，結局，専門学校を設立するための基本金の目途が立たず，市太郎は資産家の古川賢治氏に学校経営を委ねることになる。大正６年９月文部省の認可を得，「大阪歯科医学専門学校」が誕生したが，市太郎の姿はそこにはなかった。大学史のなかで「藤原市太郎は本校創立から専門学校への昇格のときまで，学校経営とその発展のために献身努力したが，何一つ報われるところなく去らねばならなかった」と，市太郎の無念を語っている。

藤原市太郎は，昭和14年１月15日に75歳で亡くなっている。奇しくもあの晴れやかな開校式のあった日の翌日である。きっと，永年の夢が現実となったその式典の情景を思い浮かべながら，その終宴とともに安らかに自らの幕を閉じたのであろう。学校を離れたあとも，母校の発展を案じていたに違いない。あの一枚の写真は，その人柄を示している。市太郎のような創立者を持ったことは本学の誇りである。

∞　∞　∞　∞　∞

藤原市太郎の言葉（学校継承時の６条件より）

「学校経営事業は営利に非ず，博愛公益のために努力するものなること」

（「大阪歯科大学史一」より）

大阪歯科大学広報　第133号
発 行 日　平成16年4月30日
編集発行　広報委員会
〒573-1121　枚方市楠葉花園町8-1
電話　072-864-3111